# 任せることと信じること

校長　岡村　浩之

９月20日（金）に、この原稿を書いています。昨日と今日の２日間、中学部ろう教育部門３年の生徒３人が、上越市、妙高市、長岡市方面へ修学旅行に行っています。当校がある新潟市は現在大雨で公共の交通機関の乱れも出ていますが、生徒の旅行先は快晴のようです。笑顔で帰校してくれることと思います。

先日、新潟県特別支援教育研究会視覚障害部の研修会を、帝京平成大学　田中良広先生をお招きし当校で開催しました。講演は関東甲信越地区盲学校にもオンラインで配信し、多くの先生方からも視聴していただきました。講演は、経験の浅い弱視学級担当や盲学校勤務の先生方も多くいたので、「視覚障害教育の基礎・基本」の内容でお願いしました。「見えること」、「視覚障害のある子どものための環境整備」、「盲学校における重複障害のあり方」等、具体的な事例をあげて丁寧に指導をしていただきました。

ご講演の最後に、田中先生が師と仰ぐ視覚障害教育の権威であられる五十嵐信敬先生の言葉を紹介されました。『視覚障害乳幼児の発達を阻害する要因は、その子どもを取り巻く大人の社会的態度である』。その言葉から、〇子どもの能力を勝手に値踏みしていないか　〇明確な目標を立てて指導を行っている　〇子どもに期待をかけているか　と熱い指導がありました。

通常の学校なら、先輩がいて同級生がいて後輩がいるという環境の中で学習が行われます。しかし、児童生徒数の減少がある盲学校、聾学校では一人学級や欠学年があることも多くみられます。修学旅行に行っている生徒も、中学部生になってからは、上級生、高等部生がいない状況で２年間生活しました。１、２年生からろう教育部門の最上級生として、学校行事の挨拶、部門行事の計画立案や他部門の高等部生徒の話し合って進める生徒会等の役を任されて取り組んできました。戸惑いや緊張の中、担当の教師の適切な指導もあり意欲的に丁寧に取り組む姿がありました。

今年度７月30日31日に、当校が主管する北陸地区聾学校親善体育大会卓球大会があり、生徒は歓迎の挨拶と、選手宣誓の役を担いました。他校の校長から、「中学生だけど立派な挨拶、振る舞いですね」と褒めていただきました。先輩がいない状況の中では、手本から学ぶことができないデメリットはありましたが、役を任せ成長を信じた教員の指導とそれに応えた生徒の頑張りは、ちゃんと実を結んでくれました。

子どもは学校で学びたいできるようになりたいと、学校や先生に期待して毎日元気に登校してくれています。その子どもの可能性を期待し、適切な課題と支援を提供することができるよう今後もしっかり取り組んで参ります。